

令和3年7月1日

大阪府立柴島高等学校 第1回 学校運営協議会 議事録

1 会議日 令和3年6月30日(水)

2 開催方法 資料送付及び意見聴取

3 委員

	氏名	資格	所属
会長	森田 英嗣	学識経験者	大阪教育大学 副学長
副会長	山本 了照	地域の関係者	大阪市立淡路中学校 校長
委員	戸田 和雄	その他の関係者	大阪府立柴島高等学校後援会 会長
委員	武田 緑	地域の関係者	Demo(教育ファシリテーター・武田緑事務所) 代表
委員	表西 貴文	地域の関係者	大阪市新大阪人権協会 評議員
委員	白濱 めぐみ	保護者	大阪府立柴島高等学校PTA 会長

4 事務局(学校側)

坪内 誠道(教頭) 三輪 真嗣(首席) 内田 清彦(首席) 堀 博俊(事務長)  
森田 正良(校長)

5 送付資料

- 令和3年度第1回学校運営協議会の案内
- 校長あいさつ
- 令和3年度学校経営計画
- 令和3年度人権教育推進にかかわる年間方針
- 令和3年度各校務分掌の年間方針
- 令和3年度学校運営協議会実施要項

6 意見聴取の経緯

- 令和3年6月11日(金) 事務局から各委員に資料送付(意見聴取の期日を6月30日に設定)
- 6月16日(水) 表西委員より電話にて意見聴取
  - 6月19日(土) 武田委員よりメールにて意見聴取  
森田会長よりメールにて意見聴取  
白濱委員より口頭にて意見確認
  - 6月23日(水) 山本副会長より口頭にて意見確認
  - 6月27日(日) 戸田委員よりFAXにて意見聴取

## 7 委員からの意見の概要

- ・資料を確認した。いろいろと厳しい状況なので、方針の全てがやりきれないかもしれないが、応援している。今後の進捗状況について、ぜひ知らせてほしい。
- ・全体として大きな異論はない。大切なことを押さえて実施していこうとしていると感じた。めざす学校像や人権教育推進の年間方針に教職員の安心安全・人権尊重についても触れられていることが素晴らしい。教職員自身が、自分は尊重されている、安心して働いていると思える実感は、生徒への関わり方等にも必ず反映する。生徒に必要な支援を考えると教職員の負担が増えていくというジレンマもあると思うが、方針の中に位置づけることはとても意味があると感じる。
- ・生活指導部の方針に関わっては、NPOカタリバが行なっている「みんなのルールメイキングプロジェクト」に注目している。また、地域社会に直接アクセスすることができる連携体制づくりについては、「直接」というのがとてもいいと思った。具体的な案があるなら聞きたい。
- ・柴島高校のこれまでの学校づくりの伝統を継承しつつ、新しい時代へのチャレンジが全体としてバランス良くなされようとしていることが確認できた。
- ・「学校経営計画」の評価指標の欄を見ると、学校教育自己診断における「家庭学習」「地域とのかかわり」「web ページの活用等」「進路達成率」の項目で昨年度の実績を超える数値目標が掲げられ、今年度の重点目標であることがうかがえた。いずれも地域・家庭との連携が要となるので、重点がそうしたところにおかれることが理解できた。価値あるチャレンジではないかと思う。ただ、各分掌の年間方針等を見ても、どのようなアプローチを用いて達成されようとしているのか、はっきりとは確認できなかった。この辺りが明確になると、「学校経営計画」がより具体的に理解できたと思う。
- ・来年度から新「学習指導要領」が年次進行で本格実施になる。柴島高校では、コアカリキュラム等の独自のカリキュラムを持っており、それを新「学習指導要領」とどのように組合せて、柴島らしさを強化していくかが大きな課題になる。教務部の方針では、それが強く意識されており、クラス数・教員数減の状況にも対応する切実さが読取れた。このように大きなカリキュラムマネジメントの時期にあっては、「学校経営計画」にも記載があっても良いのではないかと感じた。
- ・各分掌の年間方針には、随所に柴島高校らしさが読取れた。とりわけ人権教育推進委員会の「自分を語る取組」の意義は今後も重要になると思う。また、生活指導部の方針にある「全員生指」の考え方や問題行動の予防の視点は共感するところが多かった。集団育成部の「共生目標」「協働目標」や自立支援コースの「共生」の概念についても、柴島らしさが大いに感じられ、新しい時代を切り開く気概が感じられた。人権教育を基盤とする柴島らしさを今後も際立たせていただきたい。
- ・総務部の方針において、後援会と学校との関係も表してもらえたらと思う。保健部の方針については、薬物乱用防止教育、性に関する教育、エイズなど、どこまで踏み込んで教えるのか。また、安全教育はどこまで進んでいるのか。生活指導部の方針に関わっては、生徒と教職員の信頼関係が全てといっても過言ではない。生徒の実情に合わせた指導、粘り強い指導が大事である。
- ・クラス数・教員数減のため、開講講座を減らさなければならないなど、柴島高校の最大の良さ、一人ひとりの生徒に寄った授業ができなくなる現状が大きな問題。学校運営協議会からあがった問題点を学校側と協議し可能な取組を進展させる、学校側では難しい事柄はPTAと後援会が同じ思いで内外に伝えるなど、同じ方向性をもって協議会のメンバーが取組んでいけたらと思う。

## 8 第2回学校運営協議会について

新型コロナウイルス感染状況をみきわめながら設定したうえであらためて案内する予定